

# 富山市立星井町公民館

## ◆地域の概要

- ・富山市の中心部に位置し、北は山王祭りで親しまれている日枝神社、南には富山市科学博物館が建つ城南公園などがあり、とても環境に恵まれたところです。
- ・世帯数1,357世帯、人口2,530人（令和8年1月末現在）のうち0歳～14歳が10%、65歳以上が40%と比較的少子高齢化が進んでいる地域ではありますが、三世代ふれあい活動が盛んな地域です。

## ◆デジタル活用の活動内容

- ①学習成果の発信
  - ・公民館のホームページにて活動内容の発信
- ②多様な参加へのアプローチ
  - ・公民館アドレスを使った行事参加の申込

## ◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容（デジタル活用を含む）	参加人数
7月26日（土）	中野新町公園	自然体験 ・鮎のつかみ取り体験と七夕飾の会 ・公民館アドレスを使って参加申込受付 ・学遊ネットにて活動報告を発信	延べ 80名
11月15日（土） 16日（日）	星井町公民館	文化祭 ・地区住民や公民館サークルの展示と発表会 ・防災意識の啓発活動 ・学遊ネットにて活動報告を発信	延べ 100名
令和8年 1月8日（木）	星井町公民館	伝承料理（ます寿し作り） 体験教室 ・公民館アドレスを使って参加申込受付 ・学遊ネットにて活動報告を発信	27名
2月11日 （水・祝）	星井町公民館	三世代ふれあい活動 ・チョコラおはぎ作り体験会 地区のおばあちゃんと小学生が チョコレートを使ったおはぎ作り をしました。 ・公民館アドレスを使って参加申込受付 ・学遊ネットにて活動報告を発信	37名

## ◆事業の様子

### ☆ 自然体験

自治振興会がスポーツ協会、児童クラブの協力のもと星井町公民館に隣接する中野新町公園の池に鮎を放流してつかみ取り体験をしました。七夕飾りは毎年行っている行事で集まった方に願いを書いてもらい、公民館の玄関に飾りました。



### ☆ 文化祭



文化祭は地区住民や公民館サークルの方が日頃の成果を発表する場として三年に1回、開催しています。体験コーナーや小スペースながら市防災課からお借りした防災グッズの展示もしました。



### ☆ 伝承料理（ます寿し作り体験）教室

富山の伝統食の「ます寿し」の歴史と作り方をます寿し屋の店主さんを講師として勉強させていただきました。小学生の参加もあり、三世代でふれあい交流のできる場になりました。



### ☆ 三世代ふれあい ショコラおはぎ作り体験会

バレンタインデーに近いということもあり、あんにんにチョコレートを使ったおはぎ作りをしました。食生活改善推進員さん、保健推進員さん、児童クラブさん、長寿会の方々に手伝ってもらい、楽しい会になりました。

## ◆事業の成果と課題

今回自然体験と地域のふれあい活動が当地区の事業テーマで、その点ではある一定の成果があったのではないかと思います。富山市の中心部に位置しながら公民館職員も地域の回覧等も紙ベースが主流で改めてデジタル化が進んでいないことを痛感しました。この取り組みを通し、出来る範囲でデジタル活用する機会を増やしていこうと思いました。

# 「公民館deつながるモデル事業」

## 活動報告書

### 【船峯地区について】

船峯地区の人口は、令和6年度には1,906人、そのうち20歳までの割合が10%、65歳以上が40%を超える少子高齢化の進んでいる地域です。

船峯の歴史は古く、国指定史跡の直坂遺跡をはじめ、県指定天然記念物や県指定重要文化財などを有しています。

江戸末期に加賀藩によって完成した舟倉用水が南北に流れ、米どころとして知られるようになりました。



船峯地区の名所 寺家公園の紅葉

### 【デジタルを活用した取り組み】

公民館HPやSNSを利用し活動内容を発信しました。参加申し込みは従来の電話受付に加え、二次元バーコードからフォームで受付できるようにしました。また、年2回発行している館報のうち1回をHPに掲載しデジタル化に挑戦してみました。

地域のみんで  
**防災講座**  
7月6日 時間：9:30~14:00  
会場：船峯小学校体育館・船峯公民館  
参加無料  
避難所体験 防災セミナー  
救き出し体験&試食

食品サンプル作り  
体験教室  
2025  
7.24  
13:30~15:00  
参加費：500円  
船峯公民館  
TEL: 468-1519

## 事業内容

### 7月6日(日)地域のみんなで防災講座

船嶼小学校体育館、船嶼公民館 52名

<内容>避難所体験、炊き出し調理試食、セミナー

船嶼地区社協と小学校保護者会に、企画、運営等に協力してもらいました。開催案内は、チラシ配布と公民館HPやPTAのLINEで行い、フォームでも申し込みでもらいました。小学校の保護者はほとんどがフォームでの申し込みだった反面、一般の方は電話申し込みが多く、フォームでの申し込みに抵抗があるようでした。やり方が分かれば便利だと思うので、今後はやり方を説明する機会を設けたいと思います。



### 7月24日(木)夏休みお楽しみ教室① 食品サンプルづくり

船嶼公民館 21名

<内容>食品サンプルでかき氷づくり

チラシ配布と公民館HPで周知し、フォームでも申し込みでもらいました。小学校保護者世代にはフォーム申し込みが浸透しているので今後も継続していきたいです。

公民館HPには講座の様子などをその都度載せるようにしています。PDFでもHPに載せられるようになるととても便利になると思います。



#### 【成果】

- ・フォームでも受付することで時間を気にせず申し込みがし易かったようです。
- ・公民館のHPに講座案内や様子が載っていると、案内の見逃しを防げたり、参加してみようと思うきっかけになると思います。

#### 【課題】

- ・公民館HPの存在の周知とInstagramに挑戦してみることです。

### 2月13日(金)館報128号発刊

船嶼公民館 16名

<内容>公民館行事の紹介や地域の問題を掲載

公民館の記事と地域の方々に寄稿してもらった内容で作成し、全戸配布しています。今回、公民館HPでも見れるようデジタル版として掲載してみました。寄稿者の名前が入っているので、HPに載せる際に修正しなければいけなかったのが大変でした。

# 射水市片口コミュニティセンター



新湊弁財天

## ◆ 地域の概要

- 片口地区は、かつてはのどかな水郷地帯であったが、富山新港の開港や臨海工業用地の造成が進み人口が増加した。現在は世帯数が約1,603世帯、人口が約3,714人である。また人口のうち、65歳以上が約19.3%となっており少子高齢化が進んでいる。
- 片口地区に高純度アルミ製の「新湊弁財天」がある。その大きさは本体9.2メートルと日本一の弁財天といわれている。
- 片口南水路緑地公園展望台には富山新港のあゆみや港湾の概要が展示されている。また、展望室からは新湊大橋を眺めることができる。

## ◆ デジタル活動の活動内容

### ② 多様な参加へのアプローチ

- Canvaを利用し、二次元バーコードを掲載した案内チラシの作成
- HPへの行事予定、参加募集の掲載



片口南水路緑地公園展望台

## 郷土料理教室 12 / 9

- Canvaを使用し案内チラシを作成、地域住民に配布し参加募集をした。
- 講師より富山の郷土料理についての講義を聞き、その後調理し試食をした。
- 活動する中で地域の人同士の親睦が深まった。

### 献立

☆黒豆おこわ ☆すり身揚げ ☆お酢和え  
☆小松菜と切り干し大根のおかか添え ☆たら汁



郷土料理教室 参加者17人

- 片口食生活改善推進協議会の方より、郷土料理についての「魅力」と「継承の難しさ」等について講義を受けた。継承の難しさの背景には、郷土料理に関心をもつ若者の減少や、学校や地域での学びの機会の減少、共働き世帯の増加等の理由から手軽な料理が好まれる事があることが分かった。
- これらを踏まえて、地域から郷土料理の魅力を若い世代に知ってもらう機会をつくりたい。



調理の様子

実際に作った料理





## 子どもクリスマス会 12/22

- Canvaを使って案内チラシを作成、小学校に配布し参加募集をした。
- 片口小学校児童と保育園児とその保護者、協力者の計82人が参加した。
- 目の前で繰り広げられるマジックの技に、子どもたちは大きな歓声をあげていた。
- サンタクロースから子どもたち1人1人にプレゼントが渡され、子どもたちは大喜びだった。
- 家族や友達に日頃の感謝を込めてメッセージカードを作成し、友達同士で交換する姿が見られた。



子どもクリスマス会  
参加者82人

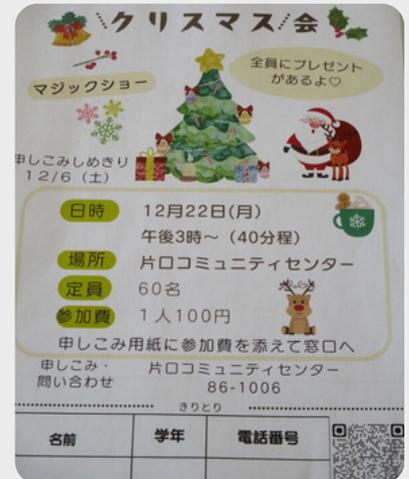


### 子どもクリスマス会

- ・ハンドベル演奏
- ・ジャンケンゲーム
- ・マジックショー
- ・サンタさんからプレゼント



マジックショーの様子



案内チラシ

### ◆事業の成果と課題

- 事業の参加を促すチラシの作成がCanvaを使用することで容易になった。
- 二次元バーコードを掲載した案内チラシをホームページに掲載したことで、これまで行事に参加したことのない親子の参加があった。
- 活動の様子をSNSによって公開する予定だったが、個人情報の保護やPCのセキュリティ問題があり難しく、出来なかった。



ハンドベル演奏の様子

# 公民館deつながるモデル事業 活動報告書

## 高岡市立守山公民館

### ◆地域の概要

本地域は、中山間地域に位置し、北東部の二上丘陵には守山城跡があり、西部には能越自動車道の高岡北インターチェンジがある。

地区人口は、2,143人、890世帯（R7.3.31）市内35地区中25番目である。  
そのうち、65歳以上は、約40%以上で高齢化が進んでいる。

### ◆デジタル活用の活動内容

# 01

## 学習成果の 発信

SNS活用した  
イベント情報の発信



- ・ Instagramで情報発信
- ・ Canvaの活用  
投稿用の画像や案内チラシ  
を作成

# 02

## 多様な参加の アプローチ

SNSを活用した講座の開催



- ・ googleフォームの活用  
講座の参加申し込み受付
- ・ 二次元コードの活用  
案内チラシに印刷

# 03

## 他館との オンライン交流



- ・ Web会議ツールZOOMを  
利用したセミナーを開催
- ・ コーヒーセミナーの開催
- ・ Youtubeでライブ配信

news!

高岡市立守山公民館

## 公式アカウント

フォロー・いいね  
お願いいたします！

@tk\_moriyamakominkan



公式Instagram 公式ホームページ



## オンライン講座の受講 ITスキルの向上



生成AI時代のスキルを身につける。  
オンデマンドビデオを受講する。  
講座：gemini, chatgtp

高岡市立守山公民館

tel.0766-22-1511 tk17-mry@p2.tcnet.ne.jp

# ◆事業内容を振り返ってみる！

## 4つの主な事業

### 公民館カフェ 6月9日、12月6日



地域のみなさんの憩いの場、つながりの場として公民館カフェを開催した。12月のカフェは、富山大学コーヒーサークルとコラボ開催した。

※延べ人数88人が参加

### ZOOM体験会 7月24日,31日



- 1回目：ZOOMの使い方を学ぶ
- 2回目：自宅からZOOMを利用し、オンラインで会話を楽しんだ。

※延べ人数10人が参加

### コーヒーセミナー 10月22日



従来の対面集合型に加え、ZOOMを使ってオンラインでセミナーを開催した。オンライン参加公民館は、4館（二上、石堤、福岡、守山）で、ハンドドリップでコーヒーを淹れ方を学んだ。講師：富山大学コーヒーサークル

※参加人数12人

### eスポーツ体験会 7月,8月,12月,1月



ゲームソフトを使用し、高齢者を対象にeスポーツ体験会を開催した。ボウリング、マリオカート、太鼓の達人の3種目を月替わりで開催した。ボウリングが特に人気だった。

※延べ人数38人が参加

### ◆成果や課題

- ・デザインツール「Canva」でチラシづくりやインスタ用投稿写真が格段に向上した。
- ・ZOOMを利用したオンラインセミナーは、公民館事業を進めるためにも重要であり、今後も活用したい。
- ・今後は、若い世代に人気の「TickTok」や「Youtubeショート動画」を利用した情報発信に挑戦したい。

MORIYAMA

# 砺波市立梅檀山公民館

## ◆地域の概要

- ・梅檀山地区は自然に恵まれ、春は「水仙そば祭り」、秋は「コスモスウォッチング」、冬は「夢の平スキー場」として、一年を通して地区内外から多くの方に足を運んでもらっています。
- ・その一方で、土砂災害警戒区域に指定されていて、毎年のように避難所を開設しています。今年も、イノシシやクマによる被害もありました。
- ・梅檀山地区は、市内で最も少子高齢化が進んでいる地域で、2人に1人が高齢者です。

## ◆デジタル活用の活動内容

### ○学習成果の発信

- ・結ネットを活用し、各行事の様子を配信した。
- ・活動の様子を動画撮影・編集し、地元ケーブルテレビの「となみ地区特派員だより」に提供した。

### ○多様な参加へのアプローチ

- ・Canvaを使って案内チラシを作成し、結ネットで発信した。
- ※梅檀山地区のほとんどの世帯にタブレットがあり、住民らはタブレットで案内チラシを確認し、行事に参加している。

## ◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容（デジタル活用を含む）	参加人数
5月25日(日)	夢の平コスモス荘ほか	【歩こう会】 避難所までの道を歩きながら、危険個所を確認したり、食べられる山野草をインターネットで調べたりした。また、その様子を撮影・編集し、ケーブルテレビに動画提供した。	27名
6月29日(日)	梅檀山農村集落センター駐車場	【竹細工教室】 梅檀山の竹で、竹の灯籠を作ったり、男性料理教室の器を作ったりした。完成した作品は、結ネットで配信した。	22名
7月13日(日)	梅檀山農村集落センター調理室	【男性料理教室】 砺波特産の「大門素麺」や地元産の野菜等を使った男性料理教室を開催。その様子を撮影・編集し、ケーブルテレビに動画提供したほか、完成した料理の写真は、結ネットで配信した。	25名
11月2日(日)	梅檀山体育館	【GPSを使った避難訓練】 避難訓練の中で、避難所までかかった時間と経路をGPSで確認した。事業チラシはCanvaで作成し、結ネットで配信した。また、当日の様子を撮影・編集し、ケーブルテレビに動画提供した。	53名

## ◆事業の様子

### ☆ 歩こう会

集落近くのバス停から、避難所である夢の平コスモス荘までの4kmを歩きました。歩きながら、道路の破損や路肩の欠損を見つけた場合は、地図に印をつけておくなどして、危険箇所を確認しました。また、災害で孤立し食糧に困る事態を想定し、目についた山野草が食べられるものであるかどうかを、インターネットで調べながら歩きました。

この様子は、地元ケーブルテレビの「となみ地区特派員だより」に動画提供し、砺波・南砺・小矢部市内の家庭に届けました。



### ☆ 竹細工教室

元の竹を使って、竹細工に取り組みました。完成した作品を結ネットで配信することにより、参加できなかった方々にもこの様子を垣間見てもらえたと感じています。

なお、この日つくった竹の器は、後日開催した男性料理教室で活用し、季節感を演出してくれました。

また、この取組みには、砺波市公民館連絡協議会の方々も参加され、竹灯籠作りを実体験しながら自館の参考としていただいたようです。



### ☆ 男性料理教室

砺波特産の大門素麺や、地元産の野菜を使った肉じゃが・野菜サラダをつくる男性料理教室を開催しました。調理しながら、製造工程や他の素麺との違いなどについて学び、地元の味への理解を深めました。参加者は、家でも作ろうと喜んで帰って行かれました。

こちらも、結ネットで活動写真を配信したほか、ケーブルテレビへ動画提供しました。



### ☆ GPSを使った避難訓練

避難訓練時に、自宅から避難場所までかかった時間と経路をGPSを使って確認しました。これにより、高齢者の避難には時間がかかることを再認識できたほか、経路を確認していると思いがけぬ近道がわかったりとおもしろい発見もありました。この避難経路は、来年の防災訓練で地図に落とし込む予定です。

事前告知は、Canvaでつくったチラシを、結ネットで配信しました。また、当日の活動の様子は、動画撮影し、ケーブルテレビで放送してもらいました。

## ◆事業の成果と課題

「公民館 de つながるモデル事業」でさせてもらったことをとおして、災害にあったときに乗り切れる力がついたと思います。GPSで高齢者の避難経路がわかったので、今後の備への参考としていきたいです。また、様々な取組みを結ネットで配信したり、ケーブルテレビで放送してもらったりすることにより、梅檀山の公民館活動を知っていただく一助となっています。

男性料理教室では、肉じゃがの野菜を生で食べようとしたり、野菜の皮をむかない方がいらしたりと、1度の教室では心許なく感じたので、今後も継続していきたいと思っています。また、配信を通じてこの取組みを知った他の住民の参加も増えればなお嬉しく思います。

# 北野地域づくり協議会

## ◆地域の概要

- ・ 本地域は、城端市街の北方に位置し、兼業農家の多い農村地帯。北野天満宮を中心としてまとまりのある地域で、井波瑞泉寺と善徳寺の中間点に位置することもあり文化、芸術的環境に恵まれ、俳句の愛好、式年太鼓などが受け継がれている。
- ・ 世帯数 274 戸、人口 815 人 (R8.12.1)。そのうち 65 歳以上が約 40%と高齢化が進んでおり、少子化も相まって、地域の伝統、行事などをどのように存続していくかが課題となっている。

## ◆デジタル活用の活動内容

### ① 学習成果の発信

- ・ Googleフォトを活用した写真、動画の共有
- ・ youtube限定公開。HPでの活動報告。

### ② 多様な参加へのアプローチ

- ・ HPへの行事予定、参加募集の掲載
- ・ 二次元バーコード、Googleフォームの活用
- ・ Canvaを利用した案内チラシの作成

## ◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容（デジタル活用を含む）	参加人数
6月8日 (日)	北野地内 農協青年部の畑	さつまいも苗植え ・ さつまいもの苗植え。 ・ Canvaで案内チラシ作成。HPに情報を掲載。 ・ Google フォーム、Google フォトを活用し、当日の写真を共有。	25 名
7月23日 (水) ~10月26 日 (日)	北野交流センター 軽体育館	小若連チビッコ太鼓教室 ・ 小中学生対象の和太鼓教室。 ・ 募集案内チラシに二次元バーコードを設置。申し込みにGoogleフォームを活用。 ・ Googleフォトを活用し、写真、動画を共有。	46 名
10月12日 (日)	北野地内 農協青年部の畑	さつまいも収穫体験 ・ さつまいもの収穫体験と焼き芋。 ・ Canvaで案内チラシ作成。二次元バーコード Googleフォームの活用。HPに情報を掲載。 ・ Googleフォトを活用し、写真、動画を共有。	30 名
10月26日 (日)	北野交流センター	第45回北野ふれあいまつり ・ 交流センターで活動する団体などのステージ発表、作品展示。活動報告動画の映写。 ・ 案内チラシをCanvaで作成。 ・ 動画の撮影。youtube限定公開	約150 名

すべてにおいて、HPに活動報告を掲載した。

## ◆事業の様子

### ☆さつまいも苗植え

農協青年部の協力を得て実施。

Canvaで案内チラシを作成。小学校の協力で、地区内の小学生に配布したことから、親子での参加が多かった。当日、Googleフォームを活用し、メールアドレスを収集。

後日、Googleフォトにて写真を共有した。HPに活動報告掲載。



### ☆小若連チビッコ太鼓教室

式年太鼓保存会の指導により、小中学生対象の和太鼓教室を実施。

参加児童、生徒46名中44名が案内チラシに掲載した二次元バーコードによる申し込み。

北野天満宮秋季例祭奉納太鼓に出演し、成果を家族や地域の方に発表した。10月のふれあいまつりにも出演。Googleフォト共有アルバムのリンクを公開し、写真、動画の共有を行った。HPに活動報告掲載。



### ☆さつまいも収穫体験

農協青年部の協力を得て実施。さつまいもの収穫体験と事前に掘っておいたさつまいもで焼き芋を行った。

Canvaを利用し、二次元バーコードを掲載した案内チラシを作成。HPに活動報告掲載。



### ☆北野ふれあいまつり

交流センターを利用している団体、保育園児などのステージ発表を行った。また、協議会の活動報告動画を制作、映写した。

事前に、Canvaで案内チラシを作成。ネット印刷を利用しカラー印刷を行い、全戸に配布。

ステージ発表の動画を撮影、限定公開。

HPに活動報告掲載。



全戸配布したチラシ

## ◆事業の成果と課題

- ・二次元バーコードを利用することで手軽に申し込みができ、特に小中学生とその親の参加はほぼ二次元バーコード経由の申し込みで、これまで行事に参加したことのない親子の参加も見られた。また、Googleフォームの活用で、名簿を自動で作成することができ、手間を減らすことができた。

- ・デジタル活用について、ほぼ一人の担当者で行っており、今後職員および交流センターで活動する団体などの協力者を募り、発信を充実させたい。

- ・各種SNSについては、運用方針などが整備不十分であり、まずは他の機関の実例を学び、情報収集からはじめ、高校生、大学生なども巻き込んで発信することを考えていきたい。

## ともに育てる、これからの公民館

### — 「公民館deつながるモデル事業」に関わって

今年度、本モデル事業に取り組みました11館の公民館および地域の皆様、一年間にわたる熱心な活動、誠にお疲れ様でした。各館の報告書からは、デジタル技術を「目的」とするのではなく、地域住民の皆さんが「つながるための手段」として主体的に活用されている様子が力強く伝わってきました。

本年度の事業全体を通じて、Instagram、YouTube、LINE、そしてCanvaを活用した魅力的なチラシ作成、二次元バーコードによる手軽な申し込みシステムの導入など、各館が工夫を凝らした情報発信を展開されました。その成果により、これまで公民館に馴染みの薄かった子育て世代や新規参加者の増加に繋がったことは、大きな成果です。

また、「eスポーツ」を通じた高齢者の交流、スマホ教室での多世代間の学び合い、そして「ます寿し作り」や「獅子舞」といった郷土文化のデジタルアーカイブ化など、地域の宝を次世代へつなぐ試みも見られました。デジタルが、単なる効率化だけでなく、地域の絆を深める「温かいツール」として機能していたことはとても印象的でした。

報告書の中では、同時に率直な課題も多く出されておりました。たとえば、SNS投稿用の画像や動画の事前準備に時間がかかり、他の業務に集中できないこと、デジタル活用が一人の担当者に集中している実態があり、協力者を募り発信体制を充実させることが求められていること、運営を支える世話人の不足が深刻で、地域協力隊の結成など新たな協力体制の構築が必要なこと、ライブ配信技術や動画編集のさらなるスキルアップの必要性、小学校保護者世代にはフォーム申し込みが浸透している一方、一般住民や高齢者には電話申し込みが多く、デジタル操作への抵抗感が根強いこと、個人情報保護やPCのセキュリティ問題により、予定していたSNS公開を断念したケースがあり、運用方針の整備が急務なことなどです。しかし、これらは停滞の証ではなく、実践が具体化した証拠です。挑戦したからこそ、課題が明確になったという、このプロセス自体が、モデル事業の大きな成果と言えるでしょう。これらの課題は、次年度へのステップとなります。

皆様が今年度蒔いた「デジタルの種」は、確実に芽吹き始めています。これからも、それぞれの公民館が持つ独自の魅力を大切にしながら、より多くの住民が「わくわく」を感じられるPRと活動を続けていただければ幸いです

「公民館deつながるモデル事業」支援アドバイザー  
全国公民館連合会  
事務局次長 村上 英己

---